

千里にほんご

「みんなで一歩、前へ」



千里にほんご
浅野雅代

ボランティア経験者

千里地域連携センターコラボ

とよなか国際交流協会

ボランティア経験者、コラボ、協会による準備会を経て、2017年4月に新規ボランティアを増員して発足。



現状把握

10月の課題設定は「活動理念が明確になっていない」だったが、ミーティングを開いて様々な議論をするものの、時間に限りもあり具体的なまとめまで行かないことが問題であることがわかった。

新たな課題設定

学習スタイル、保育など、すでに挙がっているグループの課題について、効率的な合意形成ができず、具体的な行動がとれていない。

地域日本語教育コーディネーター研修のワークショップを活動に導入する

ファシリテーション

ボランティア、コラボ、協会にワークショップ開催を提案。



連携 リソースの把握・活用

ボランティア⇒ファシリテーター1名（浅野）。コラボ⇒会場設定、用品手配。
協会⇒アドバイザー1名、参加者1名派遣。

やってみよう！

方法の開発

みんなの意見、思い、希望を、わかりあい、行動できる形にするには?!

グループ分け

一度、立場を超えて、個人で全体のことを考える。カードでみんな出席すればいい。
それぞれの立場を分散し、均等にグループ配置。カードは各自の考えで書く。

欠席者は事前にカードを書いて提出。学習者の意見は、聞き取って記入。

グループワーク

まずは話しやすい人数でじっくり話す 分類から対策までグループで。

ワールドカフェ

ほかのグループを回ったり、説明したりで、 視野を広く
意見を取り入れ、改めて自分たちを見直す 目線を変えて

グループ発表

短時間で共有 同じ課題、対策の共有、異なる意見の発見、理解

全体ミーティング

見てわかる形で合意形成 みんなで整理、共通意見はその場で採択



成果

- ・活動理念の再認識：「千里にほんご」を外国人生活者の地域での暮らしの拠点に。
- ・実施項目の採択：年間計画の立案、イベント系の創設、学習スタイルの変更、当番制の改良、カード型チラシの作成、保育の実施。

活動

さっそく地域イベントに参加。
折り紙で交流

立場の違ういろんな人と意見交換ができ、
今まで気づかなかった発見があった。



保育に向けても始動!



短時間で話がまとまるようになった。



たくさんのアイデアが出て、
動き出した。

